資料 4

令和８年１０月１６日
都市整備部都市計画課

江東区都市計画マスタープラン2022 の成果管理について

令和４年３月に策定した「江東区都市計画マスタープラン2022」では、重要なまちづくり政策として重点戦略を掲げるとともに、プランの着実な推進に向けて成果管理を行うこととしている。令和７年度の実績及び今後の予定等は以下のとおりである。

１　重点戦略の進捗

重点戦略１：「地下鉄８号線延伸のまちづくり」

○「江東区地下鉄８号線沿線まちづくり構想」策定（令和５年３月）
○「(仮称) 枝川駅周辺地区まちづくり方針」策定（令和７年３月）
○「(仮称) 千石駅周辺地区まちづくり方針」策定（令和８年３月）
○「住吉駅周辺地区まちづくり方針」策定予定（令和９年３月）

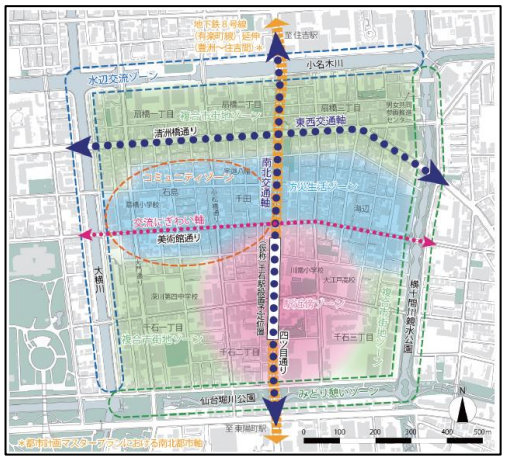
重点戦略２：「未来の臨海部のまちづくり」

○「江東区臨海部都市交通ビジョン」策定(令和６年３月)
○臨海部を含む区全域を対象とした移動手段のマスタープランである「江東区地域公共交通計画」を策定予定（令和９年３月）

重点戦略３：「浸水対応型のまちづくり」

○「江東区浸水対応型まちづくりビジョン」策定(令和６年３月)
○「西大島地域まちづくり方針【増補版】」策定（令和７年７月）※
○「大島三丁目駅前エリアまちづくり方針」策定（同上）※
○「(仮称) 大島四丁目エリアまちづくり方針」策定（令和７年１０月） ※
○「門前仲町駅前エリアまちづくり方針」策定（令和８年６月）※
○「潮見地区まちづくり方針」改定（令和８年６月）※
※各まちづくり方針において、浸水対応の方針を盛り込む。

重点戦略１：地下鉄８号線延伸のまちづくり



「(仮称) 千石駅周辺地区まちづくり方針」より抜粋

重点戦略３：浸水対応型まちづくり



「門前仲町駅前エリアまちづくり方針」より抜粋

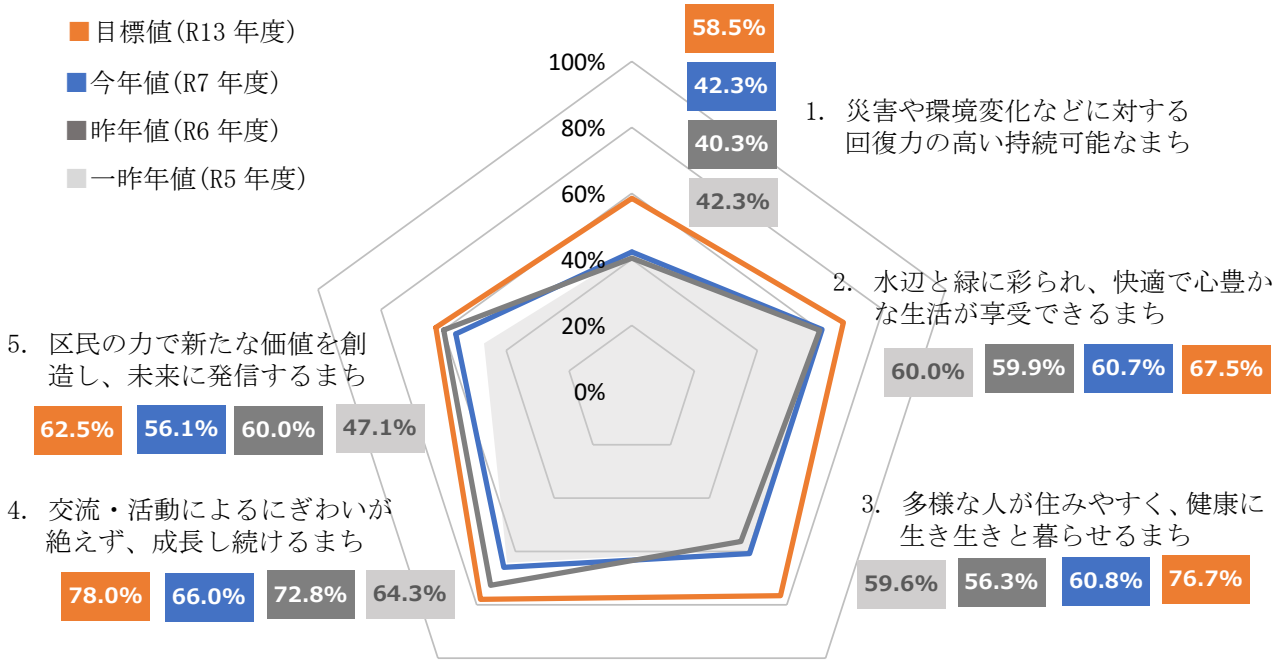
2 成果管理

以下①から③について指標を設定し、まちづくりの進捗度合いを定量的・定性的にモニタリングする。

① 総合的なまちづくり

〈表 1〉〈図 1〉で示すとおり、令和 7 年度の総合的なまちづくりの満足度については、将来像 1・2・3 で前年度から上昇が見られる一方、将来像 4・5 では低下が見られた。全体としては、R5 年度と比較して向上している。

今後は、個別施策に加え、都市機能の配置や連携の観点から取組を進めるとともに、災害時の対応や復興も見据えた都市機能のあり方についても検討を進め、都市計画マスタープランに基づくまちづくりの目標達成につなげていく。



〈図 1〉

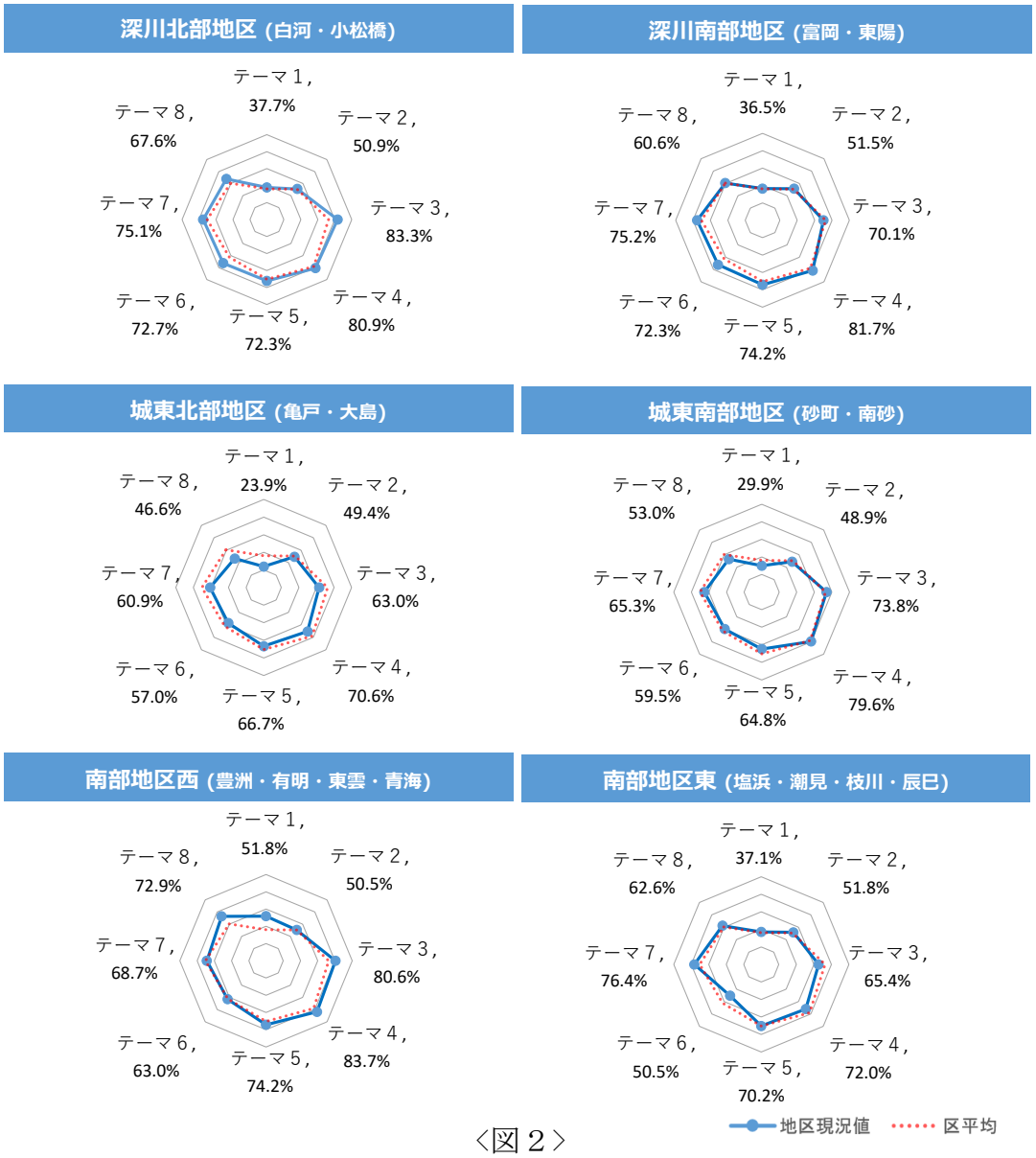
【満足度（アウトカム指標）】 〈表 1〉

目指すべき江東区のまちの姿	満足度※		
	R6 年度	R7 年度	目標値
1 災害や環境変化などに対する回復力の高い持続可能なまち	40.3%	42.3%	58.5%
2 水辺と緑に彩られ、快適で心豊かな生活が享受できるまち	59.9%	60.7%	67.5%
3 多様な人が住みやすく、健康に生き生きと暮らせるまち	56.3%	60.8%	76.7%
4 交流・活動によるにぎわいが絶えず、成長し続けるまち	72.8%	66.0%	78.0%
5 区民の力で新たな価値を創造し、未来に発信するまち	60.0%	56.1%	62.5%

※江東区長期計画区民アンケート調査を基に算出。目標値の年次は令和 13 年度。

② テーマ別まちづくり

〈表 2〉〈図 2〉で示すとおり、１、４、５、６で上昇が見られるなど、基礎的な生活環境分野で改善が確認された。１、５、６では上昇幅が大きく、取組の効果が表れているものと考えられる。地区別にみると、道路・交通は、深川地域（深川北部・南部）で 10 ポイント前後と高い一方、南部地区東では-12.0 ポイントと低く、地区間で評価に差が見られる。



〈図２〉

〈表２〉

テーマ別の部門	満足度※（地区平均）	
	R6 年度	R7 年度
1 緊急時にも適時的確に対応する回復力の高い都市 （安全・安心部門）	31.7%	36.1%
2 地球温暖化対策に対応する脱炭素都市 （環境部門）	51.1%	50.5%
3 水辺と緑に彩られ交流と活力を生み出す快適な都市 （水辺と緑部門）	72.6%	72.7%
4 多様な暮らしを育む定住都市 （住環境部門）	74.9%	78.1%
5 誰でも生き生きと暮らせる健康都市 （健康・スポーツ部門）	66.3%	70.4%
6 快適に移動できるネットワーク都市 （道路・交通部門）	58.5%	62.5%
7 自然や文化、地域資源が織りなす観光・交流都市 （観光・交流部門）	88.0%	70.3%
8 みんなでつくる美しいまち並みを次世代に継承する都市 （景観部門）	60.4%	60.5%

※江東区長期計画区民アンケート調査を基に算出

８部門の各代表指標（１６項目）〈表３〉は、令和６年度から７年度にかけて、上昇が７指標、低下が６指標、横ばいが２指標であった。その中で、公園整備や環境施策等において取組の進展が見られる。

【事業活動量（アウトプット指標)】　〈表３〉

テーマ別の部門	代表指標	単位	R6 年度	R7 年度	目標値※
1 安全・安心	・特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化率	%	88.7	89.0	92
	・再生可能エネルギー設備を導入した区施設数	施設	82	82	84
	・災害協力隊の数	隊	329	326	337
2 環境	・区内の年間二酸化炭素排出量	千 t-CO2	2,662 (4 年度)	2,532 (5 年度)	1,680
	・再生可能エネルギー設備を導入した区施設数（再掲）	施設	82	82	84
	・地球温暖化防止設備導入助成申請件数	件	1,319	1,585	1,680
3 水辺と緑	・水辺・潮風の散歩道整備率	%	61.62	63.34	65.11
	・緑被率　（R4 年度 21.01%）	%	―	―	22%
4 住環境	・区営住宅の整備・改修の団地数	か所	4	3	13 団地
	・マンション計画修繕調査支援事業の助成件数	件	19	38	45
5 健康・スポーツ	・区立スポーツ施設の利用者数	千人	1,744	1,741	2,550
	・公園面積	ha	578.7	609.1	550
6 道路・交通	・主要生活道路（区道）の改修面積	㎡	30,413	23,238	30,000 ㎡/年
		※毎年度の改修面積を目標値としている。			
	・細街路拡幅整備延長	m	22,922	23,757	28,179
7 観光・交流	・観光ガイドの案内者数	人	2,746	2,379	3,000
	・「江東ブランド」認定企業数	社	58	61	83
8 景観	・水辺・潮風の散歩道整備率（再掲）	%	61.62	63.34	65.11
	・無電柱化延長（区道）	m	24,846	24,846	26,940

※目標値の年次は指標ごとに異なる
※長期計画の指標に準ずる

③　まちづくり方針等の策定

R7 年度には、３つのまちづくり方針を策定した。将来都市構造における２２の拠点等について、まちづくり方針等の策定を目指すこととしており、社会情勢の動向を踏まえ、大規模な土地利用転換等を契機としたまちづくりを引続き検討するとともに、地域住民の意識啓発や勉強会等の取り組みを支援するなど、まちづくりの機運を醸成していく。

【まちづくり方針の策定状況】※令和８年７月末時点　〈表４〉

まちづくり方針等　一覧		策定数
策定済み	潮見地区まちづくり方針（H20 策定 R8 改定） 北砂三・四・五丁目地区まちづくり方針（H30） 西大島地域まちづくり方針（H30 策定・R7【増補版】策定） 亀戸六丁目まちづくり方針（H30） 新砂二・三丁目地区まちづくり方針（R2） （仮称）枝川駅周辺地区まちづくり方針（R6） 大島三丁目駅前エリアまちづくり方針（R7） 大島四丁目エリアまちづくり方針（R7） （仮称）千石駅周辺地区まちづくり方針（R7） 門前仲町駅前地区エリアまちづくり方針（R8）	１０
予定	住吉駅周辺地区まちづくり方針（R8）	1